

## C. 生徒指導研究

川田 基生 原 幸宏 丸山 豊

米田 潤一 米山 誠

### ロシア語クラブ（中・高）における国際理解教育の試み

——16年間（1974～1989）の歩みを顧みて——

米 山 誠

#### 1. 外国語学習と国際理解

外国語学習の主要な意義としては、外国語を使う能力を養うこと、そして、そのことばを通して他国民・他民族に対する理解を深め、偏見を改めること、さらに、外国語・外国文化との比較によって自国語および自国文化への認識を深めることなどが考えられる。

すべての分野で、いわゆる国際化の進む現代日本において、英語偏重の、しかも受験対策に追われがちな従来の外国語教育のあり方は、いま反省を求められているのではないだろうか。最近、文部省は国際化に対応して、高校では英語のみならず幅広い外国語の教育に本腰を入れていく旨の方針を示した。1991年度から「外国語教育多様化研究推進校（仮称）」を全国に30校程度指定する計画だそうである。ちなみに、英語以外の外国語を教えている高校は全国で、フランス語89校（私立55校）、中国語71校（私立31校）、ドイツ語54校（私立30校）、スペイン語21校（私立12校）、韓国・朝鮮語14校（私立6校）、ロシア語4校（私立2校）とされている。（注1）

さて、名大附属中学・高校におけるロシア語クラブは、必修クラブの一つとして1974年度に発足した。ロシア語クラブの意図は、生徒たちに未知の外国語にふれさせ、自発的に学ばせながら外国語を知る楽しさを実感させることであった。週1時間、前・後期各12～13時間、年間通しても25時間程度のクラブ活動ゆえに、クラブ員も顧問も互いに、毎時、好奇心を刺激されながら、いきいきとロシア語およびロシア語の文化に接しうればよい、と考えた。クラブとして成立するかどうか、また、成立しても継続できるかどうか、確たる見通しのない発足であったが、結局、16年間の長期にわたり、細々とながら命脈を保ち、1990年度は17年目

を迎えることとなった。なぜ每期、中学・高校あわせて平均10数名のクラブ員が集まり、今日まで継続できたのか。根本的な理由は、一つには英語以外の外国語にふれながら、これまで知らなかった世界を覗いてみることの物珍しさであったと思われる。また一つには、クラブとしての活動形態の自由さが考えられる。

次に、ロシア語クラブで活動した生徒たちの感想をいくつか抜き出してみよう。

○内野 陽（1956年度・高3）

「……いろいろな意味でおもしろかったですね。楽しかったり、興味深かったり、いろいろとくり返しくり返し音を聞いて、文字を覚えて……。未知の分野でした、ロシア語は。ローマ字は形としては小学校以前から見ているし、小学校では国語の時間に“ローマ字”という時間があって直接、教師から習ったりする。それに比べてロシア語は文字からして、あまりというかほとんどお目にかからない。そんな文字や、あの迫力を感じる発音はそれだけで実に興味をひき、“あっ、違う文化！”という思いを抱かせてくれました。ロシア語クラブはそのようにロシア語を習得しようとするだけでなく、その民族のもつ文化をも少しずつ教えてくれました。」

○安藤真由美（1986年度・中2）

「はじめて入ったロシア語クラブは、知らないことだらけでした。新しいアルファベット、新しい単語。英語をはじめて習ったときより大変でした。英語の単語とごちゃごちゃになってなかなか覚えることができませんでした。でも、いろいろ民話や民族の文化を知ることができておもしろかったです。」

ロシアの民話でも日本のと似ているんだなと思い、それまではすごく遠い国に思っていたのが、急に親しみやすくなってきました。最初のうちは“変なイント

ネーションなんだなあ”とか“何が何だかさっぱりわかんないや”とか思っていた文や単語も、いま見ていると“きれいなひびきだなあー”などと思います。“y t p o”のひびきなんか、さわやか〜って感じで好きです。CCCPをシーシーシーピーと読んでいた私が、アルファベットを覚え、エスエスエスエールと、きちんと読めるようになりました。

こうした英語の他の外国語にふれることができたのは、よい経験になりました。」

○生田敬之（1985年度・高3）

「とにかくおもしろかった。最初わたしはソ連がきらいであった。きらいであるがゆえにこのクラブでソ連をよく知ってみたかった。日本はソ連とは外交面でも文化面でも遠い。アメリカのことやヨーロッパのことは新聞で、雑誌で、テレビで、報道されるが、ソ連はどうだ。チェルネンコ書記長の死を知ったのは、没後一週間すぎてからだ。だから私はソ連を知りたかった。知ることによって今まで否定的だった自分の気持ちを是正することができたようで非常にうれしい。クラブに入って、とてもよかったと思う。特に学校祭では燃えることができたのでうれしかった。」

○川島知司（1986年度・高1）

「……ロシア語はまったくといっていいほど覚えられなかった。しかしロシア語に興味をもつことが大切である。ソ連や東欧諸国を知るために必要であると思う。他の国々の言語を知ることによって、少しでも他の文化や思想を認識するために役に立つと思う。

外国へ行って交流することが国際化ではなく、少しでも多くのことを考えるのが、本当の国際化であると思う。」

○馬場久美子（1988年度・中1）

「アルファベットや数字はおぼえるのが難しかったが、歌はすごくきれいな曲だったのでおぼえられました。

母といっしょに美術館へ行ったとき、展示されていたものが、ロシアの画家の油絵で、題名とか画家名とかがロシア語で書かれていて文字が読めてよかったと思いました。」

○松川理絵（1988年度・高2）

「私は高1の前期このクラブに入ったので、今回で2度目でした。前回このクラブに入ったときの理由はロシア語がどんなものか知りたかったからですが、今回は、“ロシアの文化”というものに接したいということが理由でした。

私は'88の夏、イギリス、フランス、チェコ、ユーゴスラビア、イスラエル、イタリアなどの国の人と接する機会がありましたが、そのとき自分が他の国の文化をほとんど知らないということと、とても強く感じたのと同時に、自分の目を日本だけに向けなくて世界

に向けることの大切さを感じました。

そんなわけで、ロシアの人と接することはないかもしれないけれど、自分の知らないこと、様々な文化に触れることは自分の視野を広げ、考えを大きくしてくれるものだと思います。ロシア語クラブはそのことを助ける一つの経験の場であったと思います。」

## 2. ロシア語クラブの活動と経過 (1974～1989)

### (1) ロシア語クラブ発足の動機

学習指導要領に従って1973年度から名大附属中学・高校の必修クラブも学年進行の形で発足した。「個性の伸長・情操の陶冶・協力の精神の涵養などにより、調和のとれた教育、豊かな学校生活をめざす」という学習指導要領の趣旨をいかに実現するか、検討に検討を重ねた末の発足であった。全教師（30余名）がそれぞれ顧問となって開設された20余のクラブのどれかに約670名の全生徒（中学約270名、高校約400名）が、必ず加入することで必修クラブが実現したのであった（注2）。年間のクラブ活動は前期・後期の2期制で、クラブ員の所属も各期、本人の選択によって決定するのが原則である。以上のような必修クラブの一つとして、ロシア語クラブは1974年度から発足した。

### (2) ロシア語クラブ指導の目的・方針

ロシア語の文字や発音、基本的な文法・単語・短文・会話等の学習、同時に、ロシア・ソビエトの文化・民族・地理・歴史等の理解を目的とし、テスト・成績・入試等に制約されず、のびのびと学習・研究させることを方針とした。ロシア語の基礎をゆっくりと、くり返し学習させ、しかも、新鮮な興味を失わせないように教材・参考資料等の準備に配慮した。

### (3) 顧問・設備・予算

○顧問の私は国語科教師で、かねがね、日本近代文学とロシア文学との関係について興味をもっていた。大学時代に、原語で簡単な小説を読みたい、民謡を歌ってみたいという単純な動機でロシア語を習い始めた。名大教養部の第2外国語は当時（1950年代）ドイツ語とフランス語のみで、私はドイツ語を選んだ。たまたま名大学生部の配慮で、有志の学生のためにロシア語初級講座が土曜日の午後、数回にわたって開かれ、講師の故熊沢復六先生（愛知大学）により手ほどきを受けることができた。就職後は、NHKのラジオ及びテレビによるロシア語講座を視聴した。日ソ協会のロシア語講座や短編小説読書会に出席してみたこともある。1988年夏には、バイカル湖、モスクワ、レニングラード等を訪ね、幾分でも現地でも簡単なことばの通ずる喜びを味わった。以上が顧問のロシア語歴である。

○活動場所は必修クラブの一つとして割り当てられた

普通教室。設備・備品としては、テレビ、ビデオ、テープレコーダー、レコードプレーヤー等。初めの2～3年間はレコードとテープを使用した。数年後はテレビ、ビデオの使用が可能となった。

クラブ活動費としては、クラブ発足から10年間ほどは、各年度6000円乃至10000円の予算配分を受け、教師用教科書、教材の月刊雑誌、書籍、レコード、テープ、ビデオカセット等の購入に当てた。

(4) 各年度ロシア語クラブ加入生徒数一覧表

年 度	中 学			高 校			合計	
	男	女	計	男	女	計		
1974	前期	2名	1名	3名	8名	13名	21名	24名
	後期	0	1	1	4	7	11	12
1975	前期	0	3	3	1	6	7	10
	後期	0	2	2	1	5	6	8
1976	前期	2	2	4	2	5	7	11
	後期	2	1	3	0	5	5	8
1977	前期	0	7	7	0	0	0	7
	後期	2	6	8	0	0	0	8
1978	前期	11	3	14	0	6	6	20
	後期	4	2	6	2	7	9	15
1979	前期	1	0	1	3	3	6	7
	後期	5	9	14	3	2	5	19
1980	前期	3	0	3	3	8	11	14
	後期	1	2	3	4	2	6	9
1981	前期	2	1	3	6	2	8	11
	後期	2	0	2	13	11	24	26
1982	前期	6	4	10	12	0	12	22
	後期	7	0	7	12	1	13	20

1983	前期	0	3	3	14	3	17	20
	後期	2	0	2	6	8	14	16
1984	前期	4	8	12	9	1	10	22
	後期	5	13	18	4	11	15	33
1985	前期	9	2	11	9	2	11	22
	後期	3	16	19	2	1	3	22
1986	前期	4	10	14	2	7	9	23
	後期	2	14	16	2	6	8	24
1987	前期	1	6	7	4	12	16	23
	後期	3	5	8	4	2	6	14
1988	前期	0	6	6	8	4	12	18
	後期	0	8	8	2	6	8	16
1989	前期	1	5	6	4	8	12	18
	後期	0	7	7	0	10	10	17
平均		2.6	4.6	7.2	4.5	5.1	9.6	16.8

中学・学年別平均人数

中1			中2			中3			全体		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0.8	1.6	2.4	0.7	1.6	2.3	1.1	1.4	2.5	2.6	4.6	7.2

高校・学年別平均人数

高1			高2			高3			全体		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1.7	2.3	4.0	1.5	1.6	3.1	1.5	1.0	2.5	4.5	5.1	9.6

16年間平均のロシア語クラブ員数は16.8名(最多33)

# алфавит

名、最少7名)。中学生7.2名、高校生9.6名。男子7.1名(中学2.6、高校4.5)、女子9.7名(中学4.6、高校5.1)。年度によっては、中・高のいずれかに、また男・女のいずれかに人数が偏する時もあったが、長期的にみると、大体のバランスが保たれていると言えよう。学年別にみても、中1=2.4名、中2=2.3名、中3=2.5名、高1=4名、高2=3.1名、高3=2.5名となり、偏りはない。ちなみに、名大附属中学・高校の必修クラブ全体の平均人数(生徒数をクラブ数で割った人数)は、約25名である。

## (5) 活動の内容・方法

16年間にわたる活動についてくわしく述べることはできないので、まず初年度1年間の概要をメモ風に記し、次年度以降については、特徴的と思われる活動のみ記すことにしたい。次年度以降の活動は、基本的には初年度の実践を踏まえ、クラブ員の変化等に応じて内容と方法に若干の変更を加えたに過ぎない。

各年度、前・後期とも、生徒向けに全クラブの簡潔な紹介文の一覧表が発表されることになっているが、ロシア語クラブの紹介文は、毎回、ほぼ次のような内容のものである。

アルファベット(АБВГД……)、日常のあいさつ(こんにちは、おはよう、さようなら等)、身近なやさしい単語、短文(君を愛する、等)を習う。また、ロシア民話、小説(日本語訳)を読んだり、ロシア民謡を原語で聴いたり、歌ったりする。NHKテレビのロシア語講座も視る。

## [1974年度の記録(前・後期)]

4/15 ・クラブ登録。クラブ員24名(中1=1名、中2=2名、高1=9名、高2=12名)

- ・クラブ員の自己紹介
- ・クラブの目的・方針について顧問からの説明

4/22 ・アルファベットの発音練習

- ・Здравствуйте!(こんにちは!)をくり返し発音しておぼえる。

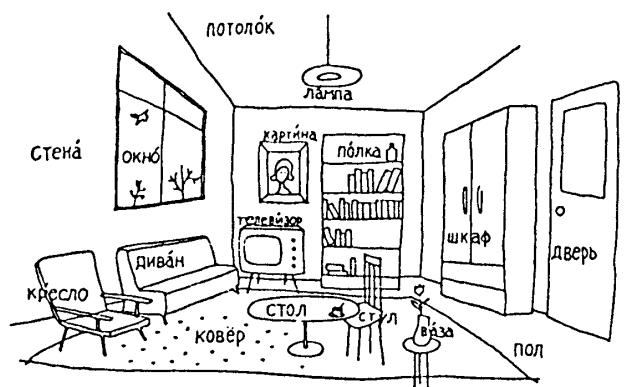
5/13 ・アルファベットの発音練習(録音を聴きながら、発音をくり返す)。全部暗誦できた者3名。

- ・テキスト配布(「NHKロシア語講座テキスト4・5月号」、現代ロシア語社編「新ロシア語習字帳」)。
- ・ロシア民謡のレコードを聴く(「ボルガの舟歌」「赤いサラファン」等)。
- ・Здравствуйте!, До свидания!(さようなら!)の発音練習。

活字体	筆記体	名称	音価	活字体	筆記体	名称	音価
Аа	<i>Аа</i>	ア	а	Рр	<i>Рр</i>	ア	р
Бб	<i>Бб</i>	ベ	б	Сс	<i>Сс</i>	ス	с
Вв	<i>Вв</i>	ヴ	в	Тт	<i>Тт</i>	ト	т
Гг	<i>Гг</i>	ゲ	г	Уу	<i>Уу</i>	ウ	у
Дд	<i>Дд</i>	デ	д	Фф	<i>Фф</i>	フ	ф
Ее	<i>Ее</i>	エ	е	Хх	<i>Хх</i>	ハ	х
Ёё	<i>Ёё</i>	エ	ё	Цц	<i>Цц</i>	ツ	ц
Жж	<i>Жж</i>	ジュ	ж	Чч	<i>Чч</i>	チュ	ч
Зз	<i>Зз</i>	ゼ	з	Шш	<i>Шш</i>	シュ	ш
Ии	<i>Ии</i>	イ	и	Щщ	<i>Щщ</i>	シュ	щ
Йй	<i>Йй</i>	イ	й	Ъъ	<i>Ъъ</i>	硬音符	
Кк	<i>Кк</i>	カ	к	Ыы	<i>Ыы</i>	イ	ы
Лл	<i>Лл</i>	レ	л	Ьь	<i>Ьь</i>	軟音符	
Мм	<i>Мм</i>	メ	м	Ээ	<i>Ээ</i>	エ	э
Нн	<i>Нн</i>	ネ	н	Юю	<i>Юю</i>	ユ	ю
Оо	<i>Оо</i>	オ	о	Яя	<i>Яя</i>	ヤ	я
Пп	<i>Пп</i>	ペ	п				

5/27 ・「ボルガの舟歌」の歌詞(ロシア語と日本語)楽譜のプリント配布。レコードを聴く。

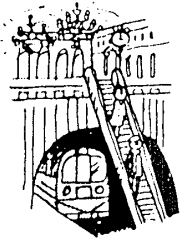
- ・身の回りの単語 стол(机)、стул(椅子)、клас(教室)、школа(学校)等の発音練習。
- ・アルファベットの発音練習
- ・спасибо(ありがとう!)の発音練習。



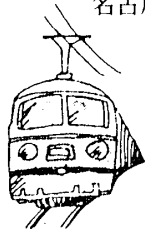
6/3 ・アルファベットの発音練習。

- ・хорошо!(よろしく!)の練習。
- ・Что это?(これは何ですか?)、Это стол.(これは机です)の練習。
- ・Что это? это——.の練習。
- ・ロシア民謡「ステンカ・ラージン」を聴く。

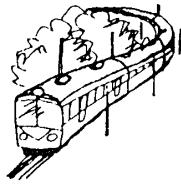
6/10 ・Что это? Это——.の練習。



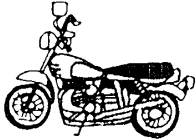
метро  
メトロ  
地下鉄



электричка  
エレクトリチカ  
電車



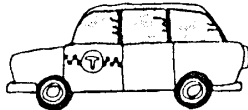
поезд  
ポイスト  
列車



мотоцикл  
モトツィクル  
オートバイ



машіна  
マシーナ  
自動車



таксі  
タクシー  
タクシー

絵を見ながら生徒たちが相互に *Что это?* と質問したり、*Это метро.* と答えたりする形の練習をくり返させ、身近な単語を覚えさせる。

6/17 ・テキストを利用しながら、前回の形の練習を続けながら、次々と新しい単語にふれさせる。

・アルファベットや会話の復習。

6/24 ・*Кто это?* (これは誰ですか?) *Это —* の指導。生徒たちに相互に、だれかを指示しながら質問したり、名前を答えさせたりする練習。また、配布したプリントの絵を見ながら練習させる。

・Да. (はい)、Нет. (いいえ) を覚える。

・*Это стол.* の形の疑問文と、それに対する答え方の練習。ロシア語は語順を変えず、イントネーションを変えるだけで疑問文となるので、特にイントネーションに注意して練習する。

9/9 ・後期教育実習期間中に当たり、実習生の一人(名大理系)がロシア語クラブに参加。大学でロシア語を習ったときの経験や感想を語ったり、生徒とともに練習したりした。

・1学期に習ったことの総復習。

・ロシア民謡を聴く。

9/30 (前期最終回)

・ロシア文字の筆記体を書く練習

Россия *Россия*  
Советский Союз *Советский Союз*  
Япония *Япония*  
Франция *Франция*  
США *США*  
Югославия *Югославия*  
Эстония *Эстония*

- ・「ボルガの舟歌」をロシア語で歌う練習。
- 10/7 ・後期クラブ登録。クラブ員12名(中1 = 1名、高1 = 2名、高2 = 9名)、新規加入者はなく、全員前期からの継続。
- ・前期の活動について一人一人、感想・意見など述べ合う。
- 10/14 ・会話(基本的なあいさつ)の練習

— Здравствуй! こんにちは!  
*Здрэвстувуй* *コンニチハ*

— До свидания! さようなら!  
*До свидания* *サヨウナラ*

— Доброе утро! おはよう(ございます)!  
*Доброе утро* *オハヨウ*

— Добрый день! こんにちは! (昼間だけの挨拶)  
*Добрый день* *コンニチハ*

— Добрый вечер! こんにちは!  
*Добрый вечер* *コンニチハ*

— Спокойной ночи! おやすみなさい!  
*Спокойной ночи* *オヤスミナサイ*

— Спасибо! ありがとうございます!  
*Спасибо* *アリガトウ*

— Пожалуйста. どういたしまして.

- ・疑問文とその応答文(1学期の復習)
- Что это? Это книга.*  
*Кто это? Это артист.*  
*Это книга? Да, это книга.*  
*Нет, это не книга.* 等。
- ・ロシア文学(トルストイ、ツルゲーネフ、ドストイェフスキー、チェーホフ等)についての顧問の話。

10/28 ・人称代名詞の学習

я	わたくし	Мы	わたくしたち
ты	きみ	Вы	あなた
он	かれ		
она	かの女	они	かれら
оно	それ		

11/11 ・人称代名詞の練習

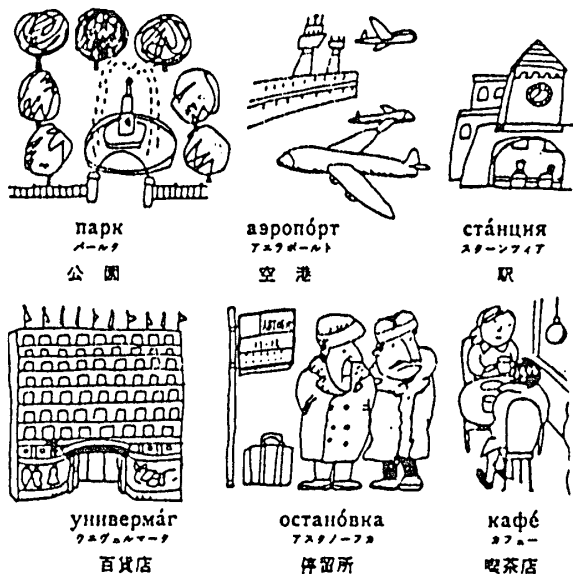
*Я студент.* (私は学生です。) *Ты студентка.* (君は女子学生です。)  
*Он артист.* (彼は芸術家です。) *Она артистка.* (彼女は女流芸術家です。)

・動詞(第1称の用法のみ)の学習

*Я работаю.* (私は働く)  
*Я знаю.* (私は知っている)、  
*Я играю.* (私は遊ぶ)、*Я читаю.* (私は読む)  
*Я говорю.* (私は話す)、*Я люблю.* (私は愛する) 等。

11/18 Где \_\_\_\_\_? (\_\_\_\_\_はどこですか?) の学習

Где парк? (公園はどこですか)  
*Он там.* (あそこです)



日本語のロシア語表記

ア	イ	ウ	エ	オ	キヤ	キュ	キ#		
а	и	у	э	о	кя	кю	кно (кё)		
カ	キ	ク	ケ	コ	シャ	シュ	シ#		
ка	ки	ку	кэ	ко	ся	сю	сно (сё)		
サ	シ	ス	セ	ソ	チャ	チュ	チ#		
са	си	су	сэ	со	тя	тю	тно (тё)		
タ	チ	ツ	テ	ト	ニヤ	Ню	ニ#		
та	ти	цу	тэ	то	ня	ню	нио (нё)		
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ヒヤ	ヒュ	ヒ#		
на	ни	ну	нэ	но	хя	хю	хно (хё)		
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	ミヤ	Мю	ミ#		
ха	хи	фу	хэ	хо	мя	мю	мно (мё)		
マ	ミ	ム	メ	モ	リヤ	リュ	リ#		
ма	ми	му	мэ	мо	ря	рю	рно (рё)		
ヤ	—	ユ	—	ヨ	ギヤ	Гю	ギ#		
я	—	ю	—	ю(ё)	гя	гю	гно (гё)		
ラ	リ	ル	レ	ロ	ジャ	Жю	ジ#		
ра	ри	ру	рэ	ро	зя	зю	зно (зё)		
ワ	—	—	—	ヲ	ビヤ	Бю	ビ#		
ва	—	—	—	о	бя	бю	бно (бё)		
ン	—	—	—	—	ビヤ	Бю	ビ#		
н	—	—	—	—	пя	пю	пно (пё)		
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	バ	ビ	ブ	ベ	ボ
га	ги	гу	гэ	го	ба	би	бу	бэ	бо
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	パ	ピ	プ	ペ	ポ
за	зи	зу	зэ	зо	па	пи	пу	пэ	по
ダ	ヂ	ヅ	デ	ド					
да	дзи	дзу	дэ	до					

11/25 ・ソビエトの有名な地名、都市名等を地図を見ながら発音させる。Где Москва? Там. のような問答をくり返させる。

ボルガ河やバイカル湖の民謡を聴く。

1/13 ・С Новым Годом! (新年おめでとう!) のあいさつをくり返し発音する。

- ・形容詞 **новый** (新しい) を覚える。новый дом (新しい家)、новая книга (新しい本)、новое перо (新しいペン)
- ・名詞の性 (男性・女性・中性) について説明
- ・ソビエトの年賀状や絵はがきを見せる。

1/20 ・ソビエトの絵本の紹介

- ・あいさつのくり返し練習

Как Вы поживаете?

(ご機嫌いかがですか。)

Спасибо, хорошо.

(ありがとう、元気です。)

2/3 ・ロシア民話の絵本「大きなかぶ」(日本語)、チュコフスキーの児童文学「わにがまちにやってきた」(内田莉莎子訳)を読む。

- ・日本の民話、世界の民話について語り合う。
- ・会話の練習

2/24 ・ロシア民謡「エルベ河」「カチューシャ」「ともしび」「トロイカ」等を聴く。

・ロシア民謡、イギリス民謡、ドイツ民謡、イタリア民謡等知っている歌をあげて、各国民謡の特徴・印象について語り合う。

- ・Я знаю, Я не знаю, 等の練習。

3/3 ・ロシア文字による日本の地名、人名の表記法の練習。各自の氏名をきれいに書かせる。

3/10 ・日本語のロシア語表記、先回の続き。全員が黒板に各自の氏名を書き、互いに訂正し合う。

・中学の国語教科書(光村)に採用されている小説「小馬」の作者、ショーロホフについて話す。また、ツルゲーネフの『散文詩』(神西清訳)から「ロシア語」という題名の1編を朗読して聞かせる。

3/17 (最終回)

- ・1年間を通じての感想・意見発表(全員)
- ・ロシア語クラブについてのアンケート実施

(6)ロシア語クラブに関するアンケートの結果(回答者は9名)

A. ロシア語クラブを選んだ理由は何ですか。

・ソ連に対する興味から。・将来、ソ連へ旅行したいから。・ロシア文字に興味があるから。・ロシア語がおもしろそうだったから。・英語以外のことばを学んでみたかったから。・変わった言語をやってみたかったから。・好奇心があったから。・目新しいクラブを選びたかったから。

B. 外国語の学習は好きですか。

- ・大好き 0名
- ・かなり好き 8
- ・どちらともいえない 1
- ・余り好きではない 0
- ・大きらい 0

<好きな理由>

- ・外国語を学ぶことに夢を感じる。・未知のものに対

する興味。・話せるようになるとおもしろい。・外国に心をひかれる。・言語文化と人間が結びついているから。

**C. ロシア語は難しいと思いましたか。**

- ・非常に難しい 1名
- ・かなり難しい 7
- ・わからない 0
- ・余り難しくない 0
- ・全然難しくない 0

〈特に難しいと思ったこと〉

- ・発音・イントネーション 6名
- ・活用、格変化等 5
- ・文字のつづり方 1

**D. ロシア語クラブの1年間をふり返ってどう感じましたか。**

- ・非常に楽しかった 1名
- ・かなり楽しかった 6
- ・どちらともいえない 1
- ・余り楽しくなかった 1
- ・全然楽しくなかった 0

〈楽しかった理由〉

- ・「もの珍しかったから」「他の人の知らないことを知ったから」等(3名)
- ・ロシア語の年賀のあいさつを知ったこと」「日常のあいさつの会話をおぼえたから」等(3名)
- ・「単語をおぼえることが楽しかった」「知った単語の数が増えるにつれて親しみが出てきた」(2名)
- ・「テストがないから」(1名)

**E. 今後もロシア語を習いたいと思いますか。(クラブ活動に限らず)**

- ・思う 4名
- ・思わない 0
- ・わからない 5

**F. ロシア語クラブに対する意見・要望**

- ・「簡単な会話ができるようにしてほしい」
- ・「おもしろかったためか、家で何も復習しなかったのに、こんなにいろいろ覚わったのが自分でも不思議です」
- ・「もっと生徒ががんばって、勉強したことを発表し合うようにするとよかった」
- ・「クラブなので家で復習などやらなかったことが今になって残念。もっとわかるようになったはずなのに」

以上が初年度(1974)の記録の概略である。顧問としては、反省させられることが多かった。次年度からは、名詞の格変化・動詞の活用語尾などにはできるだけ触れずにすませたいと考えた。

〔1975年以降の活動(特徴的なことのみ)〕

○1975年度、2年目の活動を始めるに当たって懸念され

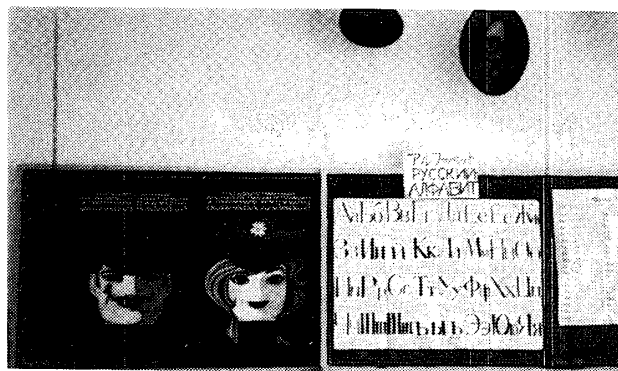
たことは、前年度からの継続の生徒と新たに入った生徒との指導であった。二つのグループに分かれ、それぞれレベルの異なる内容を学ぶような形にしなければとも考えたが、2年目の生徒も再び基礎からやる方がよいという声が多かったので、全員一斉に活動させることにした。初年度と違い、2年目の者が、積極的に発音や会話の練習を進めるので活気が生まれ、クラブ活動らしくなった。前年度よりも基礎的なことをくり返しながらくり進めるように心がけた。2年目の生徒のためには簡単な絵本など辞書を引いて読んでみることをすすめ、参考資料を用意した。

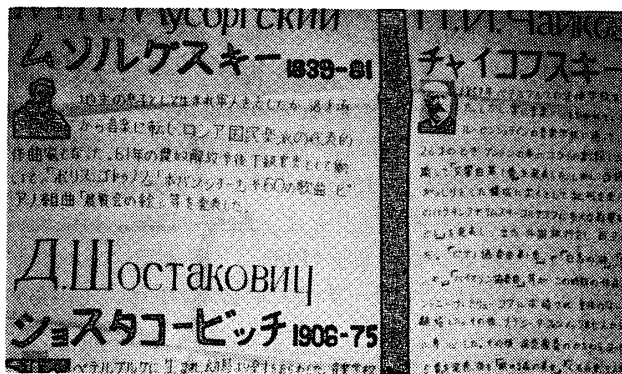
○1978年度にビデオの設備が整ったので、最大限それを活用し、NHKのロシア語講座を活用し、アルファベット、単語、文法、会話等を視聴できるようになり、生徒には好評であった。次のようなNHK講座の特集も生徒の興味をひいた。「バルト三国紀行」(1979)、「ウクライナ共和国」(1983)、「ロシア共和国めぐり」(1985)、「アニメ・プリンゲン船長の冒険」(1983)、「民話・大きなかぶら」(1985)、「五木寛之とロシア文学」(1985)、「マリーナさんの日本の印象」(1986)等。

○教育実習生のロシア語クラブに参加する機会があるので、ロシア語学習の体験・動機・学習方法等について語ってもらい、生徒の質問にも答えてもらうことにした。

○1978年度には、当時開設されてまだ間もない名大言語センターをクラブの時間に訪ね、全員で見学したり、説明を聞いたりした。

○1980年、1983年、1984年、1985年の各年度学校祭にロシア語クラブとして参加し、バザー、研究発表展示等を行った。ピロシキ・ロシア茶・ロシアクッキーのバザー、生徒各自又はグループ別担当のロシア語及びソ連に関する研究の発表、ソ連の図書・新聞・雑誌・民芸品(人形、壁掛、民族衣裳等)・絵はがき・ポスター等の展示にクラブ員全員が熱心にとり組んだ。





↑  
学校祭でのクラブ研究発表の展示  
(1985. 10)

○毎年、ロシアの民話数編（日本語訳）を読んだ。主として雑誌「今日のソ連邦」に連載されていたもので、以下のような作品である。

- ・「宝の山」（トルクメン）
- ・「馬になった旦那」（ラトビア）
- ・「木こりのパン」（リトワニア）
- ・「王様と機織り」（アルメニア）
- ・「奇跡の鳥カフカ」（タジク）
- ・「スラミの砦」（グルジア）
- ・「なまけ者のシェイドフ」（アゼルバイジャン）
- ・「貧乏神」（ウクライナ）
- ・その他。

○ロシア文学の短編（日本語訳）の読書として、次の作品を鑑賞した。

- 1982年度、「商人アクショーノフ」（トルストイ）
- 1985年度、「イワンのばか」（トルストイ）
- 1989年度、「スペードの女王」（プーシキン）

○ロシア民謡をビデオで鑑賞する機会は多かったが、鑑賞した曲の中で最も歌いやすいと思われた *Вечерний звон* 「夕べの鐘」を、全員でくり返し歌った。



1. Ве - чер - ний      звон,  
2. О    ю - ных      днях  
3. И    как    я      с ним,



ве - чер - ний      звон,  
в кра - ю    род - ном,  
на    век    прос - тясь,



как    мно - го      дум  
где    я    лю - бил,  
я    слы - шал      звон



На - во - дит      он.  
где    от - чий      дом,  
в пос - лед - ний      раз.

夕べの鐘（訳：伊東一郎）

夕べの鐘の音よ、夕べの鐘の音よ！  
なんと多くの思いをおまえは呼び起こすことか！

そこで私が人を愛し、そこに父の家があった  
あの故郷での若き日々についての思いを

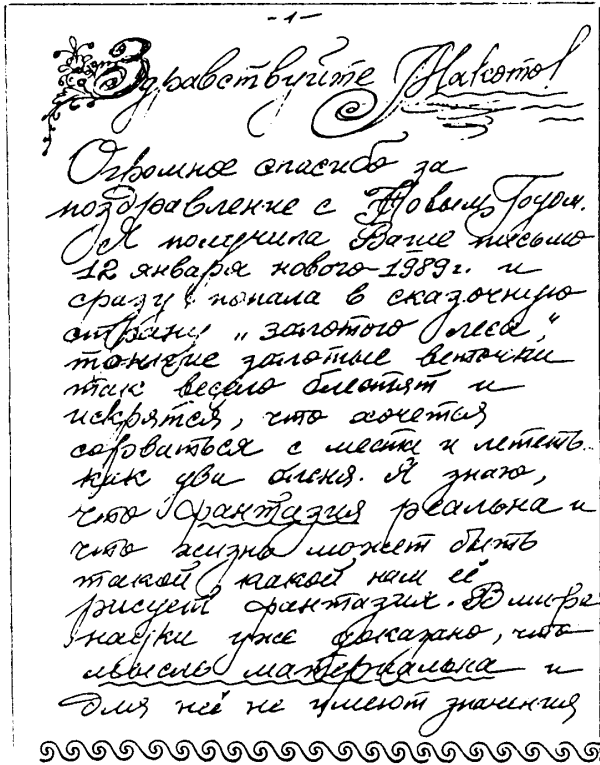
そしてその故郷に永遠の別れを告げて  
私が最後の鐘の音を聞いたときのことを！

○元ロシア語クラブ員であった卒業生の協力が、クラブ活動のためのよい励ましとなった。特にロシア文学研究の道に進んだ沼野恭子（旧姓古出）さんからは、数回の手紙と、民芸品・絵はがき・書物など寄贈を受けた。内野陽君、山田智子さんからも激励の手紙が届けられ、クラブの伝統らしきものが感じられるようになった。クラブ発足以前の卒業生、高橋哲世君も名大へ通う暇をみてクラブ活動に顔を出して、ロシア語学習の体験や、ソ連旅行の印象などを語ってくれた。○顧問である私の、ソビエト旅行（1988. 8）の体験もクラブで役立てることができた。レニングラードの中学生たちが、広島、長崎を記念する平和記念行事に活躍していた様子などを報告することができた。また、ソビエトで知り合った人から顧問及びクラブ宛に届いたロシア語の手紙に接することができた。（1989年）



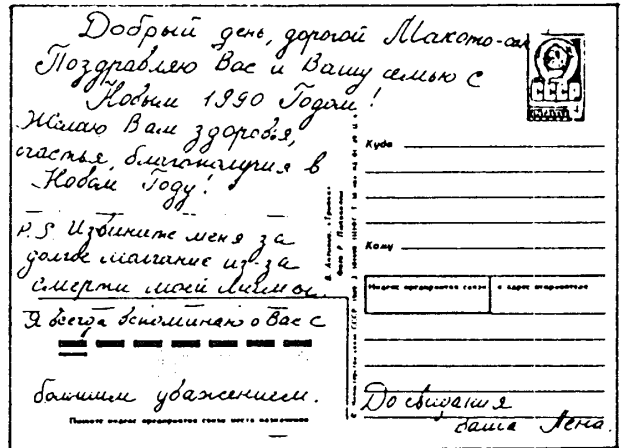
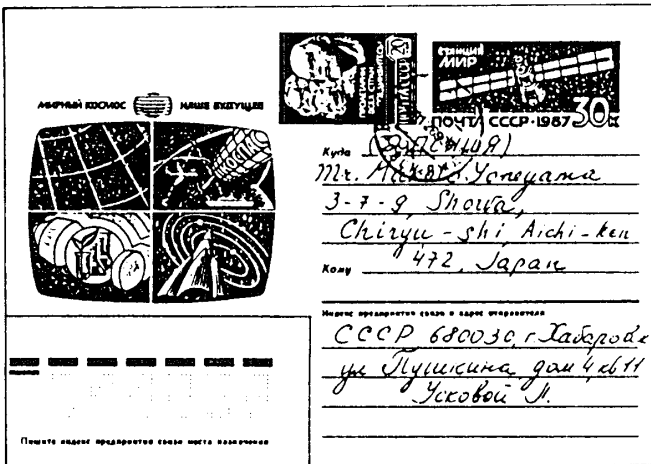
レニングラードのアーラさんからの24ページに及ぶ手紙の最初のページ

(1989. 3)



ハバロフスクのエレーナさんからの年賀状

(1990. 1)



○名古屋市でのロシア、ソビエト美術展の紹介

- ・「トレチャコフ・プーシキン2大美術館展」(1975)
- ・「ロシア美術館名作展」(1977年)
- ・「エルミタージュ美術館秘蔵レンブラント展」(1982)
- ・「エルミタージュ美術館展——フランス近代絵画の流れ——」(1988)

ロシア美術館のアイバゾフスキー「第九の波涛」が生徒たちの話題となったことをよく記憶している。

○インツーリスト発行の旅行案内パンフレットの活用 (モスクワ、レニングラード、キエフ、シベリア、シルクロードの旅、中央アジアとカザフスタンの旅、ソ連の古都めぐり、ソ連・東欧の旅等)。

○新聞、雑誌、図書等からの日本とソ連との国際交流に関する情報収集。

- ・「朝日新聞」(1986. 1)「ニコリ小さな外交官、名古屋市の小学生へのゴルバチョフ書記長のメッセージ」
- ・「ク」(1987. 11)「ソ連の子どもの平和メッセージ漂着、黒海→北海道、波にゆられて4ヶ月半」
- ・「今日のソ連邦」(1988)「長崎からレニングラードへ“平和の鐘”」
- ・「ク」(1988)「日本・ソ連、ハバロフスクで野球交流」
- ・「ク」(1989)「モスクワ剣道協会1989年誕生、気合は日本語で」
- ・「ク」(1989)大成功を取めた歌舞伎のソ連公演」
- ・「АНТИ П НАГОЯ СЕГОДНЯ」は「今日の愛知、名古屋」というロシア語版の愛知県・名古屋市の紹介誌で、愛知県日ソ協会(会長・飯島宗一前名大学長)から年1回発行されている。1988年以後No. 9～No.11をクラブで活用することができた。
- ・中村新太郎著「日本人とロシア人——物語・日露人物往来史——」(大月書店、1978)は「大黒屋光太夫とロシア女帝」、「ゴロウニンの日本幽囚」、「二葉亭四迷とロシア文学」等、興味深い内容であった。

○クラブに対するアンケートは各年度に実施したが、アンケートの結果は、反省資料として参考になった。

次は、アンケート結果の一部である。

#### 〈ロシア語クラブに入った理由〉

**1976年度**「日本語・英語のほかに何か外国語が少しでもしゃべれるようになりたかったから。それに、ソビエトは日本の隣の国なので」（中1女）。「外国語に興味があり、運動部は苦手、外国語というとロシア語クラブしかなかった。スペイン語クラブがあればいいと思います」（高1女）。「E. S. S. かロシア語か迷ったが、英語以外の外国語を一度やってみようという気が起きたから」（高2女）。「語学が好きだから。また、ロシア語は英語・仏語・独語などに比べ、学ぶ機会が少ないから」（高2女）。

**1981年度**「ロシア語クラブになぜ入ったのか。それは、ソ連を身近に感じるようになってきたからだ。特にソ連の日本に与える影響が大きくなってきたからだ。僕は、ソ連を知るにはまず第一にソ連の言語を知ることだと思ったからだ」（高3男）。「ロシア語に対する興味やロシア語文化圏に対する興味から」（高3男）。「一番いいクラブだ。一度やり始めたから途中で止めるのがもったいないと思ったから」（高3男）。

**1983年度**「外国のアマチュア無線局・放送局を聴くので英語以外の言語も知れたかった」（高1男）。「中学で3年間つづけたので、さらに続けていきたい」（高1男）。「入学案内のパンフレットをみた時に、このクラブに入るとを決めた。ソ連は私の関心のある国だから。また、英語以外の外国語が知れたかったから。ドイツ語もやりたい」（高2女）。「第3希望まで入れなかったのも、残った中で一番おもしろそうだったから」（高1男）。「いろいろ希望を書いたんだけど回されて、友だちが“ロシア語にしよう”と書いていたのでここに入れられてしまった。」（高1女）。「うわさで顧問がおもしろいと聞いたから」（高1女）。「顧問の名をみて選んだ」（高1女）。「ほかに入るものがなかったから」（中1男）。

#### 〈ロシア語に対する印象〉

・「とてもむずかしかった。発音や単語のつづりなどとても苦労した。それに文字が33もあるので、はじめはびっくりして覚えられるかな、と思った」（高1男）。

・「発音が英語より難しく、文字も書きにくい。それと格変化などは日本語の助詞みたいで、ややこしい気がした」（高1男）。

・「筆記体はまったく書けなかった。発音も難しすぎて、いくらやってもすぐ忘れてしまう」（高2女）。

・「P（エル）の発音はどうやったらうまくできるようになるのだろうか。ずーっと悩んだ」（高3女）。

・「語形変化の多いのにはまいった。名詞の男性・女

性・中性の区別も難しい」（高3男）。

・「ロシア語独特の氷とかりなどの文字を見ても、最初ほどは驚かなくなりました。ほんの少しだけでも会話もわかるようになり、親しみを感ずいます」（高2男）。

#### 〈ロシア語クラブに対する意見・要望〉

・「もっとテープやビデオを使っほしかった」、「説明の進め方がはやすぎるので、もっとゆっくり」、「普通の授業みたいに強制的だった。もっと楽しく工夫してほしい」、「会話をもっとおぼえたい。役割を分けて会話させてほしい」、「もっと実用的で、ソ連旅行にも通用するようなどを教えてほしい」、「ソ連の民族・風土・文化などをもっと知りたかった」、「ロシア映画を見たい」、「ロシア料理を食べてみたい」、「あまり文法にこだわらないようにしてほしい」、「教科書のようなものを使ってほしい」、「このクラブをいつまでも続けてほしい」等。

### 3. ロシア語クラブに対するクラブ員の意識

#### (1) クラブ員の感想文

##### 1974年度

「私たちがあまり積極的でなかったのも原因するだろうけど、一人一人、先生に指名されて答えるといった形式は“クラブ”に合っていないように思う。もっとどしどし思ったことや、ロシア語を言い合えるクラブになるのが望ましいと思った」（高2古出恭子）。

##### 1976年度

「現在や昔のソ連についてもっと参考資料のようなものがあつたら、ロシア語の勉強としておもしろいんじゃないかと思います。原文で読むのが無理なら、日本語訳のある小説とか童話とかをみんなで読んだり、ロシア料理について調べたり、そんな脱線も、語学の勉強、つまり、その国に対する理解を深めるうえで必要じゃないでしょうか」（高1河村郁子）。

##### 1978年度

「ぼくは前からロシアについて知りたかったので、朝のNHKロシア語講座をみています。その中で印象深かったのは、ナターシャさんが寿司屋に入ってわさびのきいたトロを食べたとき、涙を出しながら、ロシア語で“おいしいです”といったことです」（中2、五十住浩雄）。「僕は語学に興味があるので、ロシア語をやってみてよかったと思う。おもしろい文字が読めるようになったのはとてもすばらしい。これからは少し文法的に動詞や形容詞の勉強もしたいと思う。まあ、これからじっくりと確実に勉強していきたいと思う。ロシア語クラブ、バンザイ！」（中2和田直也）。「基礎がやれてよかった。個人的には筆記体の完璧化、単語の読みなどで進んだ。2年半このクラブに在籍して

いるが全然飽きない。クラブの時間は授業と違うから余り系統的学習をしないでもいいが、前期みたいに、会話、読み、書き、その他を関連させていくといいと思う」(中3内野 陽)。「今までよりも単語がたくさん覚わったような気がする。これからも、このくらいのスピードでゆっくりやってほしい。簡単な本など、みんなで辞書を使って訳すとおもしろいでしょうね、短いものを少しずつ。または、あいさつだけの寸劇をやってみるとかね」(中3山田智子)。

#### 1981年度

「テレビなど見ながらロシア語を覚えましたが、とてもむずかしいのであまりおぼえられなかった。週1回のクラブではせっかくおぼえたことばや単語もその次の週になると忘れてしまう」(中1山口進三)。「なごやかな雰囲気ですロシア語に接することができて楽しい。基礎中の基礎のくり返しなので、週一回の活動がカバーされてわかりやすい。若干の系統的習得があれば、もう少し程度を高くしてもおもしろいと思う」(高3内野 陽)。「語学クラブだから毎週続けていくことが大切だと思う。クラブの時間がつぶれると非常に残念である。テレビでロシア人のナマの声を聞くので大変わかりやすい」(高3出岡亮二)。

#### 1982年度

「中学はぼく一人だけなので少し張り合いがありませんでした。アルファベットは今だにおぼわっていません。Что это? Это~, だけはおぼわりました。テレビは少しむずかしかったです」(中1品川隆)。「クラブの古い先輩からソ連旅行をした時の事を聞いたり、ソ連の子どもの本など見せてもらったりして楽しかった。高校の先輩でクラブをリードしてくれる人がいてくれるのもっとよくやれると思う」(中3中川忠弘)。「ぼくは半年やっただけなのであまり理解できませんでした。アー・ペー・ヴェーさえろくに言えないのは恥ずかしいが、あいさつは幾つか覚えたので、これから機会があったら、もう少しまじめに取り組み、初級会話ぐらいはできるようにしたいと思います。ぼくら日本人は英米国人を中心とした人の話す“英語”を中学から勉強しているが、それに対して、ソ連の人などが話すロシア語も、ソ連というものを知るには勉強しなけりゃいけないと思う。ソ連の文学なんかもっと読んだりして、ソ連にもっと興味をもつようにしたい」(高2後藤慎一)。「ぼくはロシア語クラブに参加して、別にしゃべれるようになったわけではない。しかし以前のように全くロシア語を知らなかった時と違い、片言でも知って、ソ連に親しみを感じる」(高2鈴木博樹)。

#### 1983年度

「もっと語学の方に力を入れてやってみたいが、一

週に一回じゃ限界があって難しいことです。たとえば、能力別グループ(ロシア語歴から)で、言語とか民芸とかのテーマをしぼって学校祭を目標としてがんばるとか、人数次第では一人一人個別にテーマを決めさせ(ロシア語に関することで)、毎週スピーチさせてみるとか、クラブ員相互の親睦をはかる催しとか、何かやってみたい」(高2酒井雄一)。

#### 1985年度

「ぼくがこのクラブに入ったときは、正直言っていたやでした。しかし実際にやってみるとすばらしくおもしろかった。人数も高校生・中学生がたくさんでびっくりしました。以前このクラブでロシア語を学び、卒業後、ロシア語研究の道に進んだ人がいると聞いてりっぱだなあと思いました。いつも時間ぎりぎりまで熱心にやっている先輩たちにも感心しました。

まず最初は、ズドラストヴィチェ、パジャールスタなどのあいさつから始め、次はアルファベット。ぼくは、これをその日のうちに覚えてしまい、早く次の月曜にならないかと思っていたら、池田君もそうらしく、二人で練習して先生の前で発表しました。先生から“よく覚えたなあ”とほめられたときはうれしくてたまりませんでした」(中1梶谷明広)。「一番残念なことは、ロシア語の歌が歌えるようになりたかったのに、覚えなかったことです。一番たのしかったのは、トルストイの“イワンのばか”をみんなで読んだことです」(中2長野桂子)。

#### 1986年度

「私はクラブに入って最初におぼえたのが、「こんにちは」でした。ロシア語をはじめておぼえて家に帰り、さっそく父、母、姉に教えました。毎週おぼえたものを姉に教えているので自分の頭にもきざみこまれていきました。この前、家で何となくテレビをつけてみたらロシア語講座をやっていて終りまで見ました。テレビの会話で、あ、あれは……だ!と思い、ロシア語というものが身近に感じられました」(中2鈴木亜子)。「はじめは何が何だかよくわからなくて不安でした。でもクラブの時間になるたびにロシア語の単語を一つ一つ……とたくさん覚えられたのでよかったです。家でも朝起きたときには、“ドーブラェ・ウートラ”とか、何かもらったときに“スパシーバ”などロシア語を使っていました。そうしたら父が、“おれにロシア語教えて”と言うので、鼻の нос、耳の ухо、目の глаз、顔の лицоなど教えて、Что это? などと言って答えてもらいました。ロシア語を習ってとても楽しかったし、よい勉強になりました」(中2米良 愛)。「はじめにロシア語ということばを聞き、半年しか過ぎていないけれども、NHKなどテレビからロシアのことについてのニュースなどを聞くと、話

している内容はわからないけれども、時々、クラブの時間に習った単語が出てきます。一つか二つの単語の聞き覚えがあるだけで、こんなに興味をもつとは自分でも不思議だった。聞くことなら私にもできるようにするのは……と思います。考え方が甘いかな」（高2 石原君恵）。

1988年度

「はじめてこのクラブに入って、英語も少ししか知らないのに“ロシア語”なんて勉強できるのかと思いま

した。やってみると結構たのしかった。“これは何ですか？”というロシア語は、英語に比べて簡単だった。“夕べの鐘”はきれいな歌だなと思った。ロシア語の歌をたくさんきかせてください」（中1 鈴木智子）。

「ソ連という社会主義とか鉄のカーテンとかのように、国民自体までも官僚的な、笑いの少ない世界に思えていたが、その誤解が次第にとけてよかった。ロシア語は文法をもっとやりたかった」（高1 時枝 徹）。

(2)卒業生（元クラブ員）の手紙

○古出恭子さんからのロシア語の手紙（1978年、東京外国語大学）

Здравствуйте!  
Как Вы живёте?  
Я изучаю русский язык на втором курсе  
в Токийском университете иностранных  
языков. У меня сейчас нет экзаменов,  
но мне трудно учиться русскому языку.  
На лекциях мы читаем рассказы Чехова,  
русскую историю, короткие статьи о  
политике и экономике, и т.д.  
Когда читаю тексты, надо смотреть  
в словаре много незнакомых слов.

В прошлом году мы ставили спектакль по-русски. Это — "Онегин" Пушкина. Я выступала в роли дамы и играла на пианино. Наш спектакль был успешным. В апреле я смотрела московскую оперу "Онегин", приехавшую в Японию. Она была очень красивой.

Я ещё мало говорю, но мне нравится русский язык. И я хочу, в будущем, ехать в Москву и заниматься кем-нибудь по профессии.

Я люблю русские блюда, особенно горячий борщ и чай с вареньем. Я сама сделала пирог у преподавательницы. Вы знаете русский ресторан в Ногое? Он называется Рогоском.

Итак, передавайте привет Вашему  
клубу. (Хорошо ли студенты изучают в  
клубе?) Желаю Вам здоровья.  
Киёко

（訳：米山）

「こんにちは！いかがおすごでしょうか。

私は東京外国語大学2年生で、ロシア語を勉強しております。いまのところ試験はないのですが、ロシア語を覚ぶのは骨が折れます。授業で私たちはチューホフの短編、ロシアの歴史・経済の論文……等を読んでいます。テキストを読むときには、辞書でたくさんの知らない単語を調べなければなりません。

昨年私たちはロシア語劇を上演しました。それは、プーシキンの“オネーギン”です。私は奥様の役をやり、ピアノを弾きました。私たちにとって劇は上出来でした。四月に私は来日中のモスクワ・オペラ“オネーギン”を観ました。それは実にすばらしいものでした。

私はまだ少ししか話せないのですが、ロシア語がとても気に入っています。そして将来はモスクワへ行って何か専門的な仕事にたずさわりたいと思っています。私はロシア料理、特に、熱いボルシチ、ジャム入りのお茶が大好きです。私自身も女の先生のところではピロークを作ったことがあります。先生は名古屋にあるロシア料理店をご存知ですか？“ロゴスキー”というお店です。

では、ロシア語クラブの皆さんによろしくお伝えください。(皆さん、クラブでしっかり勉強してますか?) 先生のご健康をお祈りします。 恭子」

○山田智子さんから（1983年、愛知県立大学）

「ロシア語クラブのみなさん、こんにちは。

私は57年3月に卒業した元ロシア語クラブ員です。中学・高校の6年間、計12期間ずつとロシア語クラブに所属していた1人ですが、ある時は30人近く、ある時はたった7人と、しょっちゅう人が入れ替わっていて、何度もЧто это? からやり直していて、余り文法的なことではできなかったことが今とても残念に思っていることの一つです。一方で、たくさんの単語やあいさつなどをくり返しやったことによって、ロシア語から離れて2年になりますが、まだまだ覚えているものがたくさんあります。

現在、私はスペイン語科で学ぶ学生です。実はロシア語がやりたかったのですが、県内にロシア語科のある大学が無かったので、現在の大学に入りました。名大附属で、「英語以外の」外国語に接することができたことはとてもよかった、と思っていますし、何よりも、あのA B Bを初めて聞いた時の驚きは今学んでいるスペイン語への意欲に通じるものがあります。先生に見せていただいた、宇宙飛行士の乗った新聞や、先輩方から送っていただいたソ連の絵本、文化祭の展示のために借りてきたポスターなど印象深いものがいくつもあります。大学の研究室の廊下にほこりをかぶってソ連の新聞がいっぱい積み上げられている棚を見ては、“あれは何という文字だったかな？”と懐しく思い出されます。

では文化祭での展示の成功をお祈りして。

ダスビダーニャ」

○内野 陽君から（1983年）

「ぼくたちが参加したのは、クラブ創設後数年たち、安定した頃であったと思います。半年サイクルで人数が変動し、活動内容がどうなるかと思いましたが、それほど影響はなく、30名近くいた時より7～8名の時の方が充実していたようなこともありました。高2の時には、クラブ員自らが発起して文化祭に参加し、今では卒業生間の伝説となっている(?) “ミーシャ” “ピロシキ”の旋風を巻き起したこともありました。

さて、ロシア語クラブでがんばっているみなさん、あまりロシア語を読んだり書いたり、聞いたり話したりすることのできなかつた僕ですから偉そうなことは言えませんが、ひとつだけ、それもよく言われることを述べるにすぎませんが……、“継続は力なり”、何事もそうですが、このロシア語クラブこそ最もよい例であると思います。週1回、年間30回弱ですから、とにかく続けてみてください。がんばってチャレンジしてください。」

○沼野恭子〔旧姓古出〕さんから（1984年、ハーバード大学）

「カードの絵にある Harvard の像から Widner Library へかけての小道はいつとはなしに見慣れた、なつかしいものとなってしまいました。

いま、現代ソ連作家で詩人のブラート・オクジャワの『シーポフの冒険』という小説を主人と共同して翻訳しています。とても面白い小説です。いつ出版できるかわかりませんが、出版の運びとなったら、ぜひ先生にもご笑覧いただきたいと思っております。一冊の本の翻訳など私の実力ではとても無理なことなのですが、主人の下訳という形で手伝っておりますと、大変勉強になり、また言葉を捜す作業も実に面白く感じられます。……」

#### ○沼野恭子さんから (1986年)

「先日は勝手に送らせて頂いた雑誌を丁寧に読んで頂きまして大変ありがとうございました。自分の翻訳が活字になったのは初めてなので、ついうれしくて先生にお目にかけていたと思いましたがその後から考えますと、どうもお見せできるほどの自信作でもなし、恥ずかしいことをしたと全く恐縮しております。ただ翻訳という作業そのものが実に楽しく(同時に恐ろしくもあるのですが)、できればこれからも続けてゆきたいと思わせる強い魅力をもった仕事でした。ロシア関係の仕事は今不振で、ロシア文学の翻訳など往年の面影さえ残っていないほどのうらぶれようですが、誰かが細々とでも続けていかななくてはいけないと思います。

さて、翻訳をしながらも自分の学力、知識の乏しさを痛感させられることが多かったのですが、もう一度勉強し直したいという気持ちが最近強くなっていたということもあり、東大の大学院を受験しましたところ幸運にも合格し、この四月から、また学生に戻ることにになりました。比較文学・比較文化という科で、日本と外国の文学あるいは文化を比較しながら研究するという、わりと新しい分野です。

考えてみますと、高校を卒業してちょうど10年めにあたる今年、大学院に入ることになったわけですが、ロシアに尽きせぬ興味を感じるということが、勉強したいという意欲を喚ぶのです。そのそもその源、きっかけを先生が与えて下さったということに、今さらながら感謝の気持ちで一杯になります。これからも先生のサークルからロシアに興味を持つ人がどんどん出てくることを心から祈っております。」

〔注〕沼野恭子さんは、東京外語大卒業後 NHK 国際局に勤務し、その後ハーバード大学に学び、帰国後、東大大学院に入学(現在博士課程)。訳書(沼野充義氏と共訳)にオクジャワ「シーポフの冒険」(群像社、1989)等がある。]

#### ○内野 陽君から (1986年、東北大学)

「ロシア語クラブのみなさんへ。

僕は附属中に入学してすぐにロシア語クラブに入り、途中、浮気もせずに附属高を卒業するまで、このクラブに在籍していました。最初、中1の頃は、高2・3の先輩のレベルが高く感じられて、本当に大変だったような気がします。毎年、А В В から始まって、Ч Т О Э Т О ? とか、К Т О Э Т О ? とか、初歩の初歩だったから続けられたのかもしれませんが、だんだんとクラブの時間が楽しくなったようです。

大学では、第二外国語として、フランス語を勉強していますが、英語にしても、ロシア語にしても、フランス語にしても、“習うより慣れよ”というのは本当みたいです。ロシア語クラブの活動はまさにその通りだったように思います。週1時間だけの異文化の時間を充分たのしんでください。」

## 4. 反省と今後の問題

国語科教師が国語の授業のかたわら、クラブ活動の形で外国語の指導を試みることは、言語教育として魅力的な体験であった。ロシア語に対する生徒の反応に興味があった。生徒も顧問も毎時間手探りで新しい言語につき合い、一つの外国語になじんでいったように思う。しかし、何年もくり返しているうちに、どうしても惰性的となり、顧問の心に新鮮な迫力が失われがちであったことも否めない。クラブに入ってくる生徒は必ずしも全員が希望通りではなく、心ならずも他から回されてくる場合も多かった。にもかかわらず実際に16年間、このクラブを存続させてきた原動力は、何といっても、外国語に対する生徒たちの興味・関心の強さであったと思われる。そのことは、上記の多数の感想文からもうかがわれる。

珍らしい外国語にふれてみる興味と、それ以上に、その言語を通じて接する他民族の文化に対する興味が、ロシア語クラブ員を活動させたと言えよう。必修クラブ発足の1970年代初めの頃はまだ、「国際化」「国際理解」ということが今日ほど叫ばれてはいなかった。私としても、そのような目的意識をもって、このクラブを指導していたわけではない。民族や文化の特徴に目を向けさせようとしたことは事実だが、それは、あくまでも、外国語学習に対する興味・意欲を喚起するための手段と考えていた。

したがって計画的・系統的な国際理解の指導を試みたわけではなく、生徒たちが、外国語入門の学習を通じて、おのずと国際理解の興味を味わったということである。ロシア語クラブ指導のささやかな試みは、外国語の指導としても、国際理解の指導としても、中途半端なものではあったが、それなりに、中学・高校生

## ロシア語クラブ（中・高）における国際理解教育の試み

の外国語と国際理解への興味・関心を育てる道がある程度体得しえたように思う。

ロシア語クラブの指導をふり返ってみて、特に気づいたことをいくつか列記しておきたい。

- (1) 長期間にわたりクラブが存続しえたことにより、中学・高校の生徒のロシア語に対する反応の事例を数多く見ることができた。特に、3年間、さらに6年間をこのクラブだけで貫いた生徒の場合、ロシア語とその文化への興味を深めてゆく理由、過程を考察することができた。試行錯誤をくり返しながら、よりよい活動のあり方を模索できたのも長期間継続のおかげである。
- (2) ロシア語の基礎的なことをゆっくり、くり返しながら学習させる方法をとることで、中1から高3まで生徒と一緒に活動できた。テストや成績について意識せざるを得ない英語の授業と異なり、クラブ活動として楽しく学習させることが肝心であったと思う。
- (3) ことばの学習には視聴覚教材の活用がきわめて有効であることを痛感した。NHK ラジオ及びテレビのロシア語講座は、文字・発音・文法の初歩を学ばせたり、風土や文化の特色にふれさせるのに最適であった。今後はこの種の教材をいっそう計画的に活用したいものである。
- (4) 学校祭での研究発表は、クラブとして生徒たちの自発的活動をもち上げるのに有意義であった。グループ別、又は個人別にテーマを決めてそれぞれ研究を進め、成果を発表し合う機会を、学校祭以外にも、気軽に計画し、興味ある目標をもって活動させたいと思う。
- (5) 名大言語センター、名古屋国際センター、など

を訪問して外国語学習や国際理解について視野を広げ、関心を深める、または名大に留学中のソ連の学生をクラブに招き、ソ連の学校と日本の学校との違い、日本及び名古屋の印象など聞く、そんなことを実現したい。

- (6) クラブ員の中で、外国語関係の大学、学部に進んだ者はかなり多い。ロシア語学科に進学した者も第2外国語としてロシア語を選択した者もいる。英語は無論のこと、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語の各学科へも進学した。ロシア語クラブの活動が将来の進路決定に影響している事実を見て、喜びと同時に責任を感じずにはおられない。
- (7) 英語以外の外国語に対する生徒の関心・希望は私の予想以上に強かった。アンケートの結果や、生徒たちの直接の声によると、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮・韓国語、イタリア語等、生徒たちの学びたがっている言語はさまざまである。ロシア語クラブに入ったのは、他の外国語がなく、たまたまロシア語だけだったから、という理由が多い。かりに、生徒たちがそれぞれ希望する外国語に接する機会が与えられるならば、ロシア語クラブにおける以上にいきいきと学習活動が展開されることになるだろう。それは、ゆたかな国際理解の基礎が着実に養われることをも意味するのである。言語は民族を知る鍵なのだから。

〈注1〉『朝日新聞』1990. 4. 15

〈注2〉川田基生「必修クラブについての一考察」(本校『紀要第34集』P. 20~P. 24, 1989)